

和歌山県経営者協会「会員講演会」

「実際のSDGsとは」

～ 日本企業初！無洗米のSDGs貢献活動を国連で発表～

2019年、東洋ライス株式会社 代表取締役社長の雑賀氏は、スイス・ジュネーブの国連欧州本部で開かれた人権などに関する国際会議に参加し、同社のコメの加工技術による環境や健康への貢献と、国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)との関わりについて報告。BG 無洗米を軸とする貢献は、SDGsが掲げる17のゴールのうち、すでに14のゴールに及んでいます。この度の講演は、今の時代を読み解くための絶好の機会になると考えますので、是非ご聴講ください。



講師

第1部 会員講演会

東洋ライス株式会社 代表取締役社長
一般社団法人日本SDGs協会 理事

雑賀 慶二氏

第2部 事例発表(パネルディスカッション)

きのくに信用金庫
オカジ紙業株式会社
コアラ保険パートナーズ株式会社
株式会社ちひろ
三井住友海上火災株式会社和歌山支店

プロフィール

◆雑賀 慶二(さいか けいじ)氏
昭和9年 和歌山市生まれ
昭和24年 和歌山市城東中学校卒業
家業に従事
昭和36年 (株)東洋精米機製作所
(現:東洋ライス(株))入社
昭和38年 (財)雑賀技術研究所を設立
会長就任
昭和60年 (株)東洋精米機製作所
(現:東洋ライス(株))
代表取締役 社長就任
平成28年 東京農業大学 客員教授就任

日時

令和2年 **11月27日(金)**

第1部: 会員講演会 13:30~14:30

第2部: 事例発表 14:30~15:30

会場

ダイワロイネットホテル和歌山4階
和歌山市七番丁26-1 TEL 073-435-0055

参加無料

定員50名

※定員になり次第
締切らせて頂きます

■申し込み・お問い合わせ先／ **和歌山県経営者協会** TEL073-431-7376 FAX 073-422-0416

必要事項をご記入の上、切り取らずに和歌山県経営者協会までFAXでお送りください。

【FAX: 073-422-0416 和歌山県経営者協会 行】

和歌山県経営者協会会員講演会 (R2.11.27) 参加申込書

事業所名	
TEL	FAX
参加者 役職・氏名	

※申込書にご記入頂きました個人情報は、適切な管理を図り、参加者名簿の作成および本講演会に関する連絡の目的のみ使用します。

「会員講演会 パネルディスカッション」を開催

11月27日(金)、「会員講演会・SDGsパネルディスカッション」をダイワロイネットホテルにて開催した。第一部に東洋ライス(株) 代表取締役社長の雑賀慶二氏(一般社団法人日本SDGs協会理事)をお招し、「実際のSDGsとは」と題して講演を行った。第二部ではきのくに信用金庫、オカジ紙業(株)、コアア保険パートナー(株)、(株)ちひろ、三井住友海上火災保険(株)にご登壇いただき、SDGsに関する事例をパネルディスカッション形式で発表いただいた。

■【第一部】東洋ライス(株) 代表取締役社長 雑賀慶二氏 「実際のSDGsとは」

東洋ライス(株)は2019年11月スイス・ジュネーブの国際連合欧州本部で開催された「第8回国連ビジネスと人権フォーラム」において日本企業で初めてSDGsの取組みを発表。家庭排水の米のとぎ汁に含まれる物質が植物プランクトンの大量発生など水質汚染の原因になっていることに言及。「BG 無洗米」、有機質肥料「米の精」の製品化など当社の取組み、SDGsの取組みについてなど講演いただいた。講演内容は以下の通り。

●当社の取組みについて

米のとぎ汁に含まれる物質が水質汚染の原因となるのは、海水が富栄養化して植物プランクトンが大量発生するため。環境汚染を防ぐため、米のとぎ汁が出ないよう何とか工夫できないかと研究。米の表面に付着している肌ぬかを取り除き、とぎ汁が出ない「BG 無洗米」の開発に成功。取り除いた肌ぬかも無駄にはせず、家畜の資料、野菜の肥料に有効活用できる有機質肥料「米の精」を開発。無駄を極力省くことができる循環型農業に貢献することで、環境に配慮することができる。



東洋ライス(株)
代表取締役 雑賀慶二氏

●SDGsの取組み・発展について

20年振りに見た海の色が変わってしまった。将来子供が描く海の色が何色になるのか心配になったことが、環境への配慮を意識したきっかけとなった。今でこそSDGsは知られるようになってきたが、取組み当初はまだまだ認知がなく、変わり物扱いされるほどだった。

今後、企業としてはSDGsに取り組んでいくことは必須であるが、企業だけでは実現できない。一般消費者も値段だけではなく作られた経緯やどれくらい環境へ配慮されているか評価すべき。また、行政の協力も必要。企業・行政・消費者の3者がそれぞれの役割を果たし、連携することがSDGs実現につながる。それを意識して企業活動を行っていくべきである。



■【第二部】SDGs事例発表 パネルディスカッション

パネラーとして、きのくに信用金庫 楠光司氏、オカジ紙業(株) 大岡正斉氏、コアラ保険パートナーズ(株) 畑下裕子氏、(株)ちひろ 西廣安貴子氏、三井住友海上火災保険(株)和歌山支店 菊川淳氏にご登壇いただき、SDGsに取り組むきっかけや背景、取組事例、今後の課題や抱負についてパネルディスカッション形式で発表いただいた。発表内容は以下の通り。

●きのくに信用金庫

今年1月に経営理念である地域社会を愛し地域と共に歩むを念頭においたSDGs宣言を行ったのがきっかけ。取組みとして若手社員がカードゲーム「SDGsで地方創生」に参加したり勉強会を実施し、社内での意識を向上させた。また各社との共催や連携でSDGs周知活動、セミナーを実施している。当社1社では実現できないため今後は各社と連携を進め、取引先企業の支援によってサステナブルな社会の実現に近づけていければと考える。



きのくに信用金庫
上席業務役 楠光司氏

●オカジ紙業(株)

所属している段ボール工業組合の委員会でSDGsバッジの配布があり、今年目標としてSDGsに取り組むと掲げたことがきっかけ。メーカーとしてISOなどを取得していれば、SDGsの取組みは十分行っているため、当社は今自分達がしていることをSDGsの取組みに置き換えることから始めた。簡単で損はないので是非始めるべき。今後は、海南市と防災協定を結んでいるが、他市町村にも広げて非常用段ボールベッドのスムーズな供給など社会貢献活動を増やしていきたい。



オカジ紙業(株)
常務取締役 大岡正斉氏

●コアラ保険パートナーズ(株)

3年前からがん予防メディカルクラブの代理店となり、「何もしないよりやれることをとりあえず始めよう」がきっかけ。安心できる保険商品を増やしたり、ジェンダー平等として女性が活躍できる会社づくりに取り組んでいる。社員1人1人と教育、取組の共有を行っている。片男波の清掃活動なども実施。継続していくことが大事と考えるため今後もSDGsを単に流行語で終わらすのではなくコツコツと取組を続けていこうと思う。



コアラ保険パートナーズ(株)
取締役 畑下裕子氏

●(株)ちひろ

ある会合で聞いた「自然の恵みを大切にすること」に感銘し、飲食業として社員とともに何ができるか検討したことがきっかけ。お客様が残されないよう調理するには社員の技術と意識を改革する必要と考えており、命を頂いて食材を提供していることを感謝する「感謝祭」を年1回開催し社員の意識向上に繋げている。コロナでも日本の感染者数が抑えられているのは、日本の食文化が日本を助けたといわれており、今後も日本人が残した食文化を飲食業を通じて、広げていきたいと考えている。



(株)ちひろ
取締役 西廣安貴子氏

●三井住友海上火災保険(株) 和歌山支店

2018年に策定した中期経営計画で当社グループが目指す社会像として「レジリエントでサステナブルな社会の実現」を目標に掲げたことがきっかけ。取組みとしてSDGsバッジを全社員に配布し意識付けしサステナブルな取組みを社内で表彰し、全国の事例を共有することで社員の意識向上を行っている。また県警と協同でチラシを作成し周知活動を行ったりしている。当社は保険会社なので、商品の提供を通じて企業様のお役にたてるよう努め、今後も和歌山経済の発展と企業の成長を支えていきたいと考えている。



三井住友海上火災保険株式会社
和歌山支店 和歌山支社長 菊川淳氏